

【担当圏域ケア会議での意見等まとめ】 ※グループワークによる意見交換ため重複する内容あり

| 事例からイメージした地域の課題や問題点 | 課題解決に向けてできそうな事、必要な資源など |
|---|--|
| (1) 一人介護者（子のみ）、近所の見守りがない。 | ① 同居家族がいるため民生委員が訪問しにくい。子から民生委員に相談してもらう。 ② 友人関係や日中の活動範囲を把握するために、子やケアマネから近所や新聞配達等へ見守りや声掛けを依頼など地域に見守りを発信する。 ③ 徘徊探知機レンタルの検討 |
| (2) 認知症があるが専門医の受診がない。 | ① 子の認知症への理解の把握や気持ちを聞く。 ② 主治医から専門医を紹介してもらう。 ③ 保健師が訪問し薬の指導等を行いながら専門医につなげる。 ④ 理想として専門医の往診や専門病院の土日の診療があると良い。 |
| (3) 火の不始末問題。 | ① 自立支援でのヘルパー利用。（電磁調理器や電子レンジなどの電気製品の利用し調理の手順や電気製品の使い方指導など） ② 近所宅に連動して知らせる火災報知機の利用。 |
| (4) 子の仕事が忙しく帰りも遅い。出張もある。 | ① 出張時はお泊りディやショートステイの利用。 ② 夕方から利用できるナイトディ（子の迎えまで利用できる）や夕方からやっている茶の間、子育て支援センターとタイアップして学童と一緒に高齢者も過ごせるような資源があると良い。 |
| (5) 母親の認知症が進むことで、今後は子への負担が増える可能性があり、介護離職にならないように、地域の理解が大切。 | ① 子は働き盛りため地域とのつながりが薄いため、現状を民生委員や地区長に相談したり、地域に知ってもらったりすることで話し合うこともできる。 ② 本人の活動範囲や友人の把握し、その範囲が担当地区以外であればその地区の民生委員へも情報提供することで近所と本人たちの橋渡しができる。 ③ 集落単位で認知症の講座を行う事で、認知症について気にかけてくれる方が増えるかもしれない。 ④ 介護サービスを増やしたうえで支援を増やす。（例えばディの送り出しにヘルパー、シルバー人材、民生委員等の手助けの活用） ⑤ 定期受診して認知症の診断や治療を行う。 |
| (6) 火の始末ができない。健康推進員等の方から調理ができない日中独居の人数の把握ができ、日中独居でも利用できる市の配食サービスがあるとよい。 | ① 子ども食堂や男の食堂などの場所ができると良い。 ② 日中の集いの場を増やす。（例えば、しまびと応援団等に参加してもらい、ビューさわた等で楽しく過ごしながら、おにぎりやみそ汁等負担のかからない調理を組み合わせる） ③ 地域の人が見守り支援者になることで、その方が逆の立場になったときに支援してもらえる地域になると良い。（例えば、買い物など気軽に付き合ってもらおうなど） |

| 事例からイメージした地域の課題や問題点 | 課題解決に向けてできそうな事、必要な資源など |
|----------------------------------|--|
| (7) 認知症を知られたくないなど家族のプライドで発見が遅れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ① デイサービスを利用すると写真を撮るので、検索時に活用できる。 ② 息子さんから近所の人に現状を知ってもらうことで、近所と情報共有ができ見守る人にも負担にならないように、例えばゴミ出しなど隣近所の範囲で注意するのではなく見守りをしてもらう。 |
| (8) 息子に病気の認識を持ってもらう。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 医師からの指示があれば、薬剤師等が居宅療養管理指導で自宅訪問できる。 ② ケアマネや包括に相談しやすい体制を作る。(専門医受診につなぐ近所からの相談先を明確にする等) 訪問看護でも薬の管理ができる。 |
| (9) 食生活にも問題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 日中独居で食事の確保のため、宅配123を利用しながら安否確認をする。 |
| (10) 夜に帰れなくなることもある。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 夜に利用できるサービスが増えると良い。(有償ボランティアサービス) ② 病院バスがあり送迎があるので、病院がコミュニティの場になると良い。(ボランティアの力が必要) ③ 地域の一人暮らしの方も巻き込みながら、息子さんが帰るまでいられる「大人食堂」があると良い。 ④ 街灯が増えると良い。 ⑤ 「おやすみコール(夜の電話)」があると良い。 |